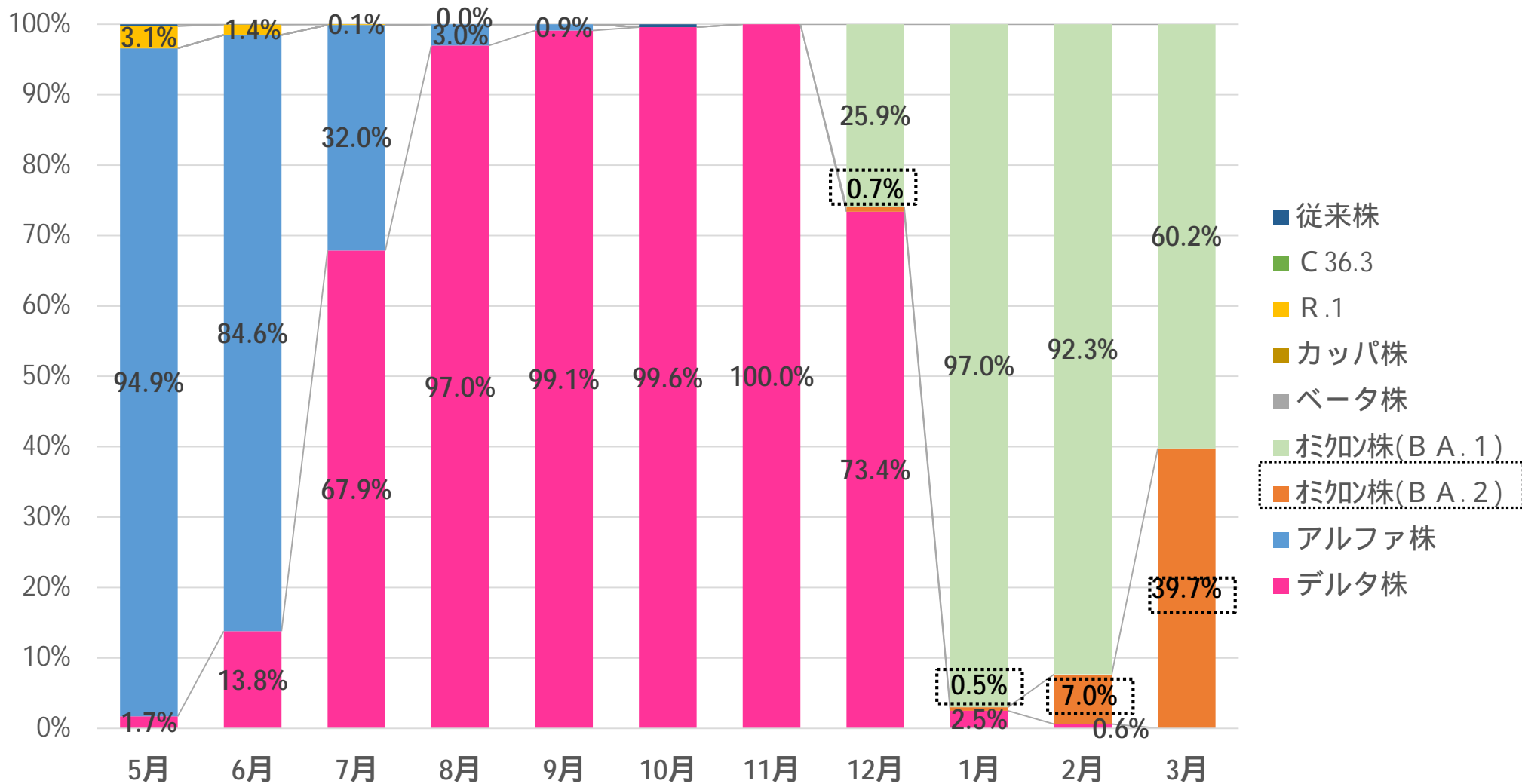


ゲノム解析結果の推移

(令和4年4月7日12時時点)



都内検体の、令和3年5月から令和4年3月までに報告を受けた、ゲノム解析の実績追加の報告により、更新する可能性あり
 新規陽性者数(報告日別)については、2月分の都の公表数の修正を反映

ゲノム解析結果について（内訳）

（令和4年4月7日12時時点）

名称	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
アルファ株	2,052	2,133	2,835	354	35	0	0	0	0	0	0
デルタ株	37	348	6,008	11,423	3,833	234	89	102	260	21	1
うちAY.4.2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
オミクロン株（BA.1）	0	0	0	0	0	0	0	36	10,115	3,096	1,726
オミクロン株（BA.2）	0	0	0	0	0	0	0	1	54	236	1,139
ベータ株	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
カッパ株	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R.1	67	36	7	0	0	0	0	0	0	0	0
C36.3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
従来株	5	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0
計	2,163	2,520	8,851	11,777	3,868	235	89	139	10,429	3,353	2,866
健安研	55	138	161	252	55	57	26	22	824	49	17
その他	2,108	2,382	8,690	11,525	3,813	178	63	117	9,605	3,304	2,849
新規陽性者数（報告日別）	21,871	12,977	44,448	129,193	31,929	2,134	542	905	194,563	416,171	256,857
実施割合	9.9%	19.4%	19.9%	9.1%	12.1%	11.0%	16.4%	15.4%	5.4%	0.8%	1.1%

都内検体の、令和3年5月から令和4年3月までに報告を受けた、ゲノム解析の実績

その他は国立感染症研究所や民間検査機関

追加の報告により、更新する可能性あり

BA.2系統の確認例のうち海外リンクが確認されているのは、12月1件、1月4件、3月1件

新規陽性者数（報告日別）については、2月分の都の公表数の修正を反映

全体に占める BA.2の割合	0.7%	0.5%	7.0%	39.7%
-------------------	------	------	------	-------

オミクロン株亜種「BA.2系統」に対応した変異株PCR検査実施状況

(令和4年4月7日12時時点)

	合計数	2.1- 2.7	2.8- 2.14	2.15- 2.21	2.22- 2.28	3.1- 3.7	3.8- 3.14	3.15- 3.21	3.22- 3.28	3.29- 4.4
変異株PCR検査実施数	4803	195	90	458	315	264	1404	912	1142	23
オミクロン株疑い	4663	181	76	445	304	258	1365	893	1120	21
「BA.2系統」 疑い	1903	0	1	33	36	46	541	467	759	20
「BA.1系統」 疑い	2760	181	75	412	268	212	824	426	361	1
デルタ株疑い	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
判定不能	139	14	13	13	11	6	39	19	22	2
「BA.2系統」疑いの割合 (判定不能は除く)	—	0%	1.3%	7.4%	11.8%	17.8%	39.6%	52.3%	67.8%	—

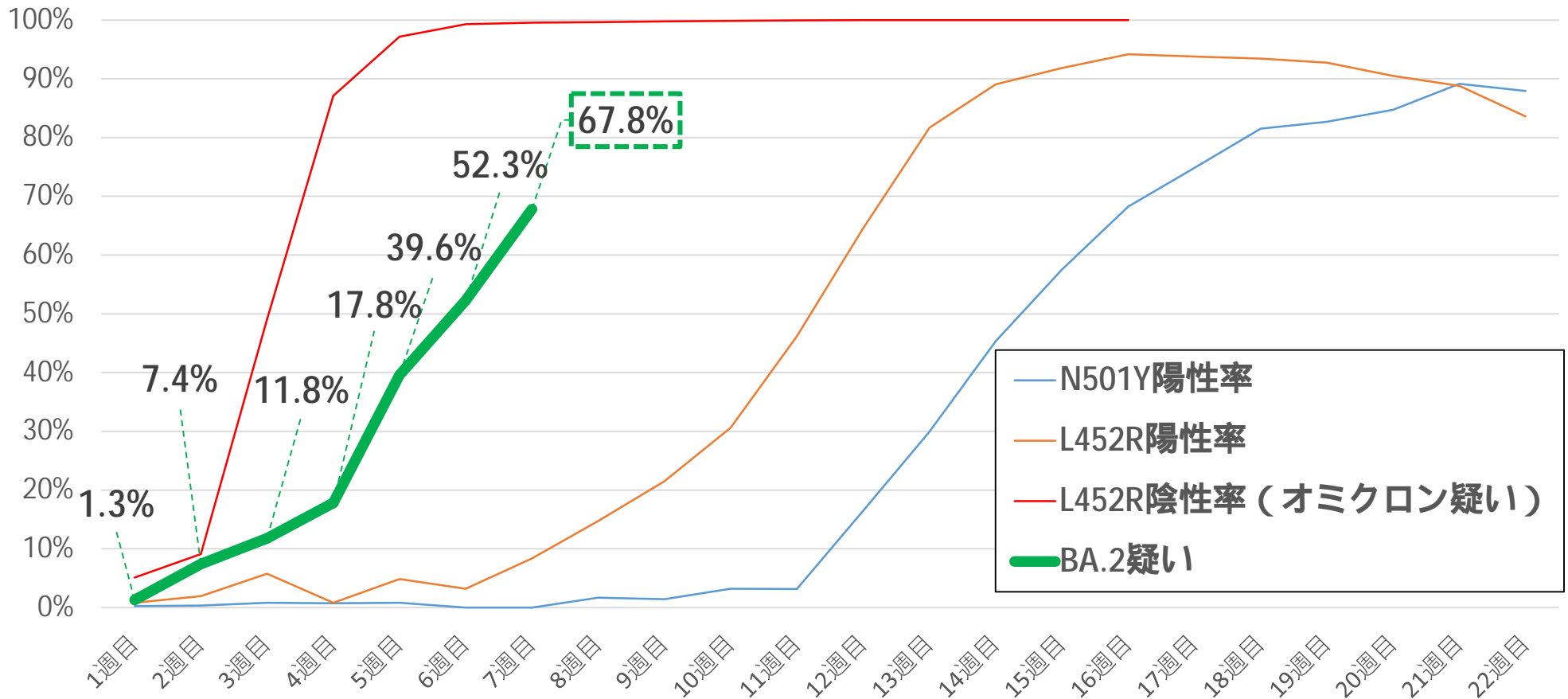
健安研の変異株PCR検査実績(民間検査機関の検体を遡及して、健安研においてBA.2系統に対応した変異株PCR検査を実施した件数を含む)

【参考】日本国内におけるゲノム解析によるBA.2系統の確認状況

- 検疫2,278例(3/30時点)、国内1,189例(3/30時点)を確認(厚労省HP)
- 都内では、ゲノム解析により1,430例確認(4/7 12時時点)

都内のB A.2系統株疑いの割合（推移）

（令和4年4月7日12時時点）



N501Yの起算点は、健安研におけるスクリーニング検査で初めて陽性が確認された1.11-1.17の週とする。

L452Rの起算点は、健安研におけるスクリーニング検査開始(4/30～)後、初めて陽性が確認された5.3-5.9の週とする。

なお、L452Rのスクリーニング検査は、健安研において4/30から開始した。4/29以前については、4/1から4/29に受け付けた検体のうち、検査可能な検体から抽出し、改めてスクリーニング検査を実施している。(4/29以前は5例の陽性例が検出されている。)

L452R陰性率(オミクロン株疑い)の起算点は、健安研におけるスクリーニング検査で初めて陽性が確認された12.14-12.20の週とする。

L452Rの陰性率(オミクロン株疑い)は、判定不能を除いて算出

BA.2疑いの起算点は、健安研におけるスクリーニング検査で初めて陽性が確認された2.8-2.14の週とする。なお、BA.2系統に対応したスクリーニング検査は、健安研において1/31から開始した。

【参考】

都内のL452R変異株PCR検査 実施状況一覧

〔オミクロン株疑い(L452R陰性)の推移〕(令和4年4月7日12時時点)

	合計数	12.2まで	12.3-12.6	12.7-12.13	12.14-12.20	12.21-12.27	12.28-1.3	1.4-1.10	1.11-1.17	1.18-1.24	1.25-1.31	2.1-2.7	2.8-2.14	2.15-2.21	2.22-2.28	3.1-3.7	3.8-3.14	3.15-3.21	3.22-3.28	3.29-4.4
新規陽性者数(報告日別)	-	-	57	118	173	263	525	5,416	22,769	60,046	106,069	127,268	108,057	102,061	78,785	72,743	60,423	52,144	45,955	53,252
変異株PCR検査実施数	150,827	29	18	77	143	176	354	3,775	15,016	26,916	30,368	10,182	7,377	13,508	8,793	7,683	7,210	6,629	7,861	4,712
健安研	2,488	29	2	28	56	52	99	386	436	465	283	195	90	104	100	71	31	13	25	23
民間検査機関等	148,339	0	16	49	87	124	255	3,389	14,580	26,451	30,085	9,987	7,287	13,404	8,693	7,612	7,179	6,616	7,836	4,689
変異株PCR検査 実施割合	-	-	31.6%	65.3%	82.7%	66.9%	67.4%	69.7%	65.9%	44.8%	28.6%	8.0%	6.8%	13.2%	11.2%	10.6%	11.9%	12.7%	17.1%	-
L452R変異株 陰性数	139,334	0	0	0	6	14	158	3,058	13,644	24,915	28,091	9,118	6,686	12,889	8,257	7,157	6,924	6,357	7,545	4,515
健安研	1,896	0	0	0	6	7	34	286	339	408	223	181	76	95	90	68	28	12	22	21
民間検査機関等	137,438	0	0	0	0	7	124	2,772	13,305	24,507	27,868	8,937	6,610	12,794	8,167	7,089	6,896	6,345	7,523	4,494
L452R変異株 陽性数	1,754	25	17	63	111	140	164	452	401	181	124	33	15	17	8	1	2	0	0	0
判定不能件数	9,738	3	1	14	26	22	32	265	971	1,820	2,153	1,031	676	602	528	525	284	272	316	197
L452R変異株PCR検査 陰性率	-	-	0.0%	0.0%	5.1%	9.1%	49.1%	87.1%	97.1%	99.3%	99.6%	99.6%	99.8%	99.9%	99.9%	99.99%	99.97%	100.0%	100.0%	100.0%

L452R変異株陰性139,334件のうち、16,403件がゲノム確定済み

12月以降のL452R陰性(デルタ株ではない)は、オミクロン株であることが推測できることからL452R陰性数を計上

民間検査機関等の実施数については、追加の報告により、更新する可能性がある

L452R変異株PCR検査陰性率は、判定不能件数を、検査実施数から除外して算出

「12.2まで」の検査結果に、アルファ株疑い1件を計上していないため、検査実施数と結果の件数が合致しない。

新規陽性者数(報告日別)については、2月分の都の公表数の修正を反映

オミクロン株亜種「BA.2系統」と「BA.1系統」の比較

	BA.2	BA.1	備考
感染性	より高い	高い	いずれもデルタ株より感染性が高い。 BA.2の方が より感染性が高く、より短い時間で感染を広げる
重症度	低い	低い	BA.2は 重症化・死亡リスク増加の報告はないが 、引き続きの知見集積が必要
ワクチン効果 (3回目接種)	○	○	1、2回目接種による効果はデルタ株より低下するものの、3回目接種により 一時的に高まる
中和抗体薬効果 1カシリビマブ・イムデビマブ(ロナプリーブ) 2ソトロビマブ(セビュティ)	従来株と比較して 低い	著しく 低下 1 一定程度 維持 2	従来株と比較して低い が、BA.2は 1, 2ともに中和活性が維持されている
抗ウイルス薬効果 レムデシビル(ベクルリ)、モルヌピラビル(ラゲブリオ) コルマトレルビル・リトナビル(キロビッド/パック)	○	○	BA.1、BA.2系統いずれに対しても効果を有していた

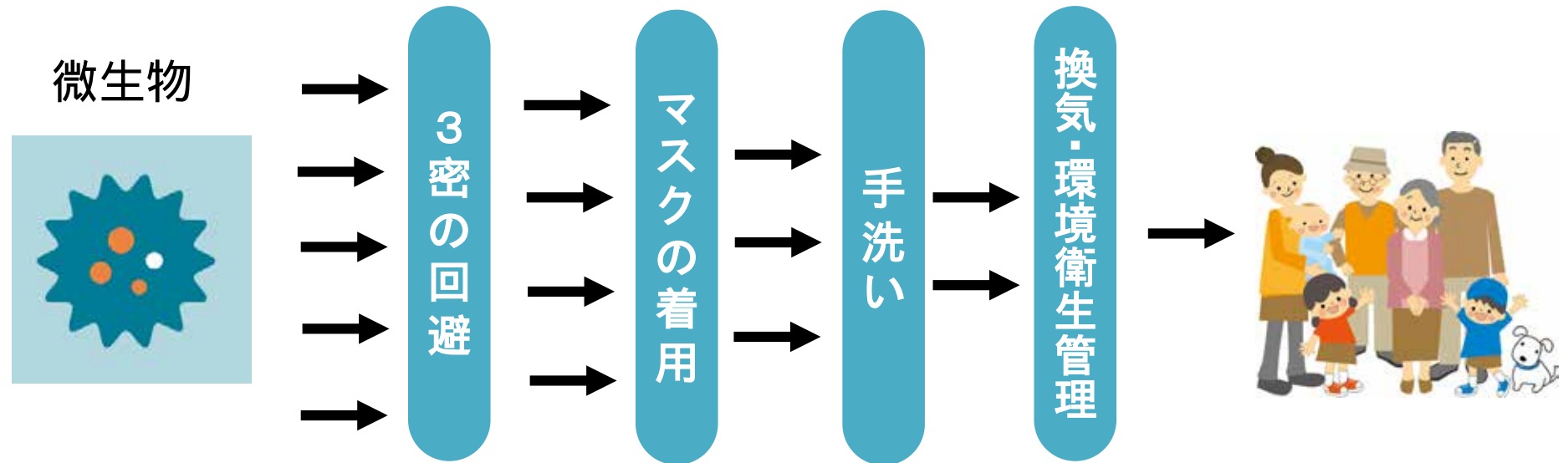
- ・国立感染症研究所「SARS-CoV-2の変異株B.1.1.529系統(オミクロン株)について(第9報)」、東京大学・国立感染症研究所・日本医療研究開発機構の「Efficacy of Antiviral Agents against the SARS-CoV-2 Omicron Subvariant BA.2」基に作成
- ・国立感染症研究所レポートは、抗体医薬品の評価はin vitro(試験管内)での評価。解釈に注意が必要
- ・内容や見解は情勢の変化によって変わる可能性があることに留意が必要

【参考】第78回アドバイザリーボード資料(令和4年3月30日)より出典

海外の状況	○ 海外の一部の地域では、BA.2系統による感染が拡大 ○ ヨーロッパではBA.2系統への置き換えが進み、感染者だけでなく重症者・死亡者が増加に転じている国もある
感染性	○ 感染した人が別の人にうつすまでの時間(世代時間) BA.2系統の方が15%短い ○ 実効再生産数 BA.2系統の方が26%高い
重症度	○ 動物実験では、BA.2系統の方が病原性が高い可能性 ○ ただし、実際の入院リスク及び重症化リスクに関する差は見られないとの報告もある
ワクチン効果	○ 3回目接種により、BA.1系統への発症予防効果が一時的に高まる ○ BA.2系統も、ワクチンの予防効果に大きな差はない

基本的感染対策の継続

ワクチン接種や基本的感染対策の継続など、総合的な感染対策によってリスク軽減を図っていく



《基本的感染対策のポイント》



換気

- 部屋の対角線にある2か所の窓や扉を常時5 10cm開ける
- 24時間換気システムやレンジフードを活用した換気も効果的



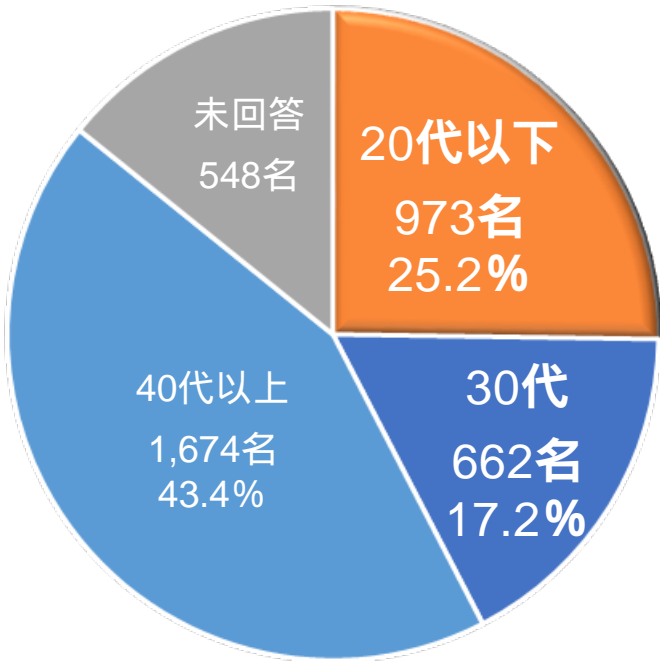
マスクの着用

- マスクは不織布を
- 顔にフィットさせて着用するのがより効果的

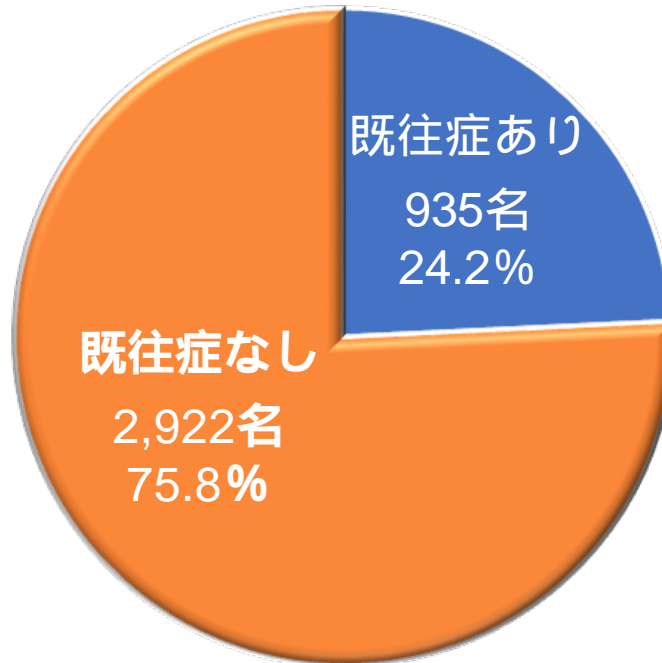
都立・公社病院における「コロナ後遺症相談窓口」の相談状況

n=3,857名

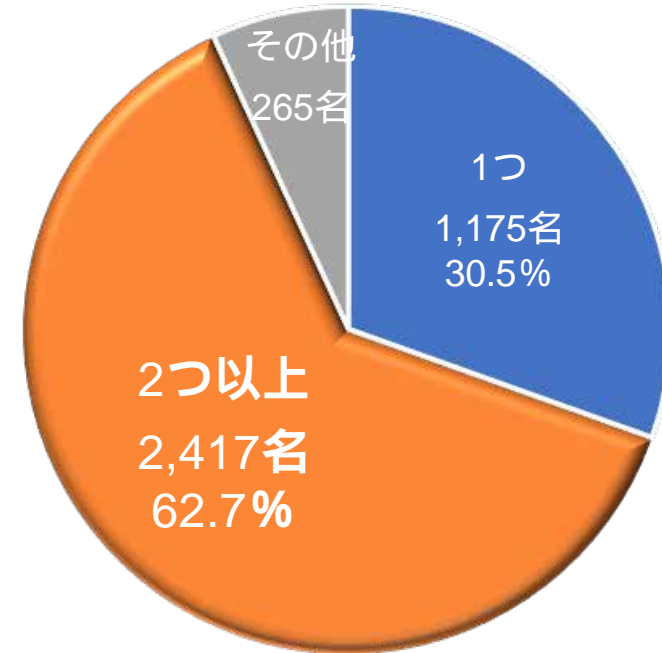
【年代別 相談者数】



【既往症(基礎疾患含む)の有無】



【訴える症状の数】



モニタリング会議資料「都立・公社病院『コロナ後遺症相談窓口』の相談データ分析」(令和4年2月3日)より抜粋

「コロナ後遺症相談窓口」の相談者の4人に1人は20代以下
相談者のうち「既往症(基礎疾患含む)がない方」が約75%
2つ以上の症状を訴える方が約62% (強い倦怠感や味覚・嗅覚障害等)